

空援隊としての番組構成上の問題点についての検証及び考察

○番組構成上の問題点の検証

(番組放送上の順番に検証を進める)

※(×)印は、空援隊が指摘する不適切な部分。

野焼き焼骨式

千鳥が淵 遺族の祈り 「祈りの先は本当に日本兵の遺骨なのか？」

亀井亘氏 100 回近く訪比する遺族の一証言。 (× 単なるうわさを本当らしく見せる表現手法)

「ポービジネスのうわさを友達等から 2.3 聞いた。遺族として許せない。」

フィリピン取材

ワンワン村 人口 900 人 盗骨が続発しているらしいという話。盗まれた人の証言。(一人)

ワンワン村の村長の証言 「盗骨の犯人は隣村ではないか？」「隣村の村長は、盗んでいないと言っている。」

「盗み以外の骨を日本人に渡している」という。

NA 「盗まれた遺骨が日本人に渡っているのは本当か？」

(× 日本人に渡しているのは、盗まれたもの以外だという話なのに、

既に、「盗まれたものが日本に。」というように表現を変えて、決めつけが始まる。)

隣村 盗骨の犯人は、見つからず。

盗みとは関係なく、骨を「空援隊」に渡した人間を取材。(× 盗難とは関係ない話)

山中から 48 体(祖父からの伝聞で、日本人と比人の混じって、洞窟に放置してある骨)

労賃という名目で、遺骨一体当たり 500 ペソ、計 24000 ペソ(5万円)を手に入れた。

(× 労賃は、1日あたりの労働の対価であることを無視している。)

(× 勝手に、1体あたりに換算し直し、1体につき金を渡しているような表現で、

売買のイメージを強調)

→ 年収の半分に相当する大金だ。(× 年収の根拠は？その後の調査で、本人は年収について、取材に答えていないと言っているのだが・・・)

空援隊とは？ 去年から、厚生労働省から全面委託を受ける NPO 法人

昭和 27 年から収集、高齢化とともに数減少 打開策→ 現地の事情に詳しい民間団体への委託

(× 遺骨収集実績の有る団体なのに、委託までの実績を無視。素人集団であるかのような表現。)

空援隊は、これまでと全く違う方策を取り入れた。

(× これまでの経緯の説明なし。いきなり違う方法を新しくやったかのような表現)

支部設置、フィリピン人に協力を求める。骨とひきかえに「労賃」という形で、お金を渡すことにした。

(× 渡すことにしたのではなく、作業に対して労賃を渡すのは当然の行為。)

(× 正当な労賃を、「労賃である形」という表現を使用し、さも、「金と引き換え」のような印象を図で表示)

(× 労賃を出すことが、今回、初めてであるような表現＝従来の政府派遣団は支払っていないのだろうか、フィリピン人にボランティアを強要していたとするのなら、そちらの方が問題では？)

NA 45 体にまで落ち込んでいた収集数が、昨年度 7740 に激増。この実績で空援隊への委託費は

今年度 4700 万円に倍増。

(× ナレーションとは違い、画面上は、7740 体で 4700 万円の委託費と受け取れる表示の仕方)

ワンワン村で、空援隊と遭遇。

空援隊が来たのは協力を呼びかけるため来たという。

村民からの非難の声。 空援隊は「あくまで」潔癖だと主張 村民の疑問は解けない。

(× あくまでとは、初めから悪と決め付けた表現。)

(× 村民の誤解は解けたのか？ 解けなかったのか？ についての言及はない)

村人からの質問(遺骨判別方法)で、空援隊の回答は「宣誓供述書」

宣誓供述書とは、発見者の供述、場所状況、日本人と認めた理由を詳しく書いてあるという。

再び、隣村。

先ほどの 24000 ペリの男性。 書いたのは、自分ではなく村長。 詳しい状況の説明はしなかった。

この村では全ての宣誓供述書を村長が一人で書く。

当初、村長は、多忙で取材拒否、ようやく取材 OK。

村長の証言 「確かに書いたのは私。」 徐々に本心を口に。

(× “本心”とは、取材拒否と結んで、何かを隠しているかのような表現 = 取材を受けるのは当然であると言う思い込みから来るものなのか?)

何故日本人の骨なのか？ → 「何処の何の骨かは分からない。書かないと言ったら怒られる。」

村長の宣誓供述書を入手

NA 「発見状況を確認することなく、2000 体を日本人として空援隊に提出したという。」

(× その 2000 体の行方の確認は？ 厚労省でも空援隊の記録でもその地区から 2000 とカウントされていたのか？ = そのような事実はない)

戦史との食い違い。～ミンド口島。

去年 1366 体。日本の資料では 438 人と推定。

ここでも遺骨の盗難が「続発」。(× “続発”という数の根拠はなし)

盗みをした3人の公開尋問映像。

容疑者の男は「有る人物が日本兵の遺骨を買い取っている」うわさを聞いて、盗難。

その人物に接触に成功。(× 如何にも怪しそうな音と窓越しの映像 = 意図的に悪人に見せるための手法ではないのか?)

それは空援隊の現地責任者。空援隊 ID カード。438 と、数千の数の違いを問い詰める。

→ 「それは周辺の島がたくさんある。空援隊は悪くない。問題があるなら、集めた人間が悪い。

彼ら全ての監視は無理。」

NA 盗みは指示していないという男性。たとえ盗まれたものだとしても日本人の骨だと区別する

仕組みがあると主張する。「専門家の鑑定で、死亡した年を調べている。」

NA 空援隊が集めた遺骨は 1 箇所を集められ、専門家の鑑定によって最終的に判断されるという。

(× 鑑定方法に持ち込むための強引な展開)

「鑑定」を調べるためマニラへ。

遺骨の鑑定をしているという国立博物館学芸員(フィルメ氏)に選別方法を問う。

→ 「日本人の骨だと言っていない。肉眼で骨を見ても国籍は分からない。無理。」

そもそも「鉱物学」専門。数を数えることが中心で、鑑定はしていない。宣誓供述書が根拠。

※「形ばかりの鑑定」「いい加減な宣誓供述書」→ 杜撰な実態！！

「フィリピン人の遺骨が日本兵のものとして送還されている」疑惑は事実の確信に。

(× 根拠の無い決め付け。 × 元々鑑定はしていない。 × いい加減の定義が不明確)

(× 宣誓供述書はフィリピン国内法に基づく正規の法的手段だが、その法的手段の正当性を無視、更に法的拘束力についての認識が皆無＝知識、調査不足は否めない)

空援隊 倉田氏取材

盗難騒ぎの骨が混じっているのでは？ → 全くない

犯人・犯罪の動機になっている！ → それは言えるかも。末端までは把握できていない。

仮に、盗難されたものが混じったと仮定して、フィリピン人遺族の感情への配慮が低いのでは？

→ 配慮は低い。というか、配慮していたら収集ができない。我々が止めたらストップする。

本来は国がやること。我々が声をあげ無かったら、フェイドアウトしていたのでは？

こういう事態は想定されていたのか？ → 確信犯です！

(× 犯罪動機の1例だけで、空援隊を非難 × 仮定の話をしているだけ)

(× NHKの取材に対する確信犯を、番組上、犯罪に対する確信犯にすり替えている)

(× 自分たちの聞きたいことを一部聞いただけで、空援隊の実態を取材していないし、2時間にも渡る取材の中での空援隊側の説明を一切無視している。

ちなみに、空援隊に対する取材はこれだけであり、現地での取材等をこちらからもオファーしたが受け入れられなかった)

厚生労働省 梅原氏取材

空援隊は日本兵の骨が混じることを容認しているが、国もそうなのか？

→ それば無い。判断できないものは持ち帰るべきでない。

鑑定する人が鑑定の専門家ではないといっている。鑑定できていないことは知っていたのか？

→ 区別がつかないと言っているのは承知している。

鑑定の意味が無いのでは？ → 絶句？

国の責任を果たしていないのでは？

→ 国の義務であることは十分承知。改善するべきところは改善するが、今その具体例は無理。

厚生労働省は、実態調査は約束したが、今後どうするのか答えられなかった。

(× 空援隊は多量に混じることを容認しているような表現。 × 絶句の後の質問の答えをカットしている)

(× 改善点が見つかった段階なのに、全てを改めることを求めている＝初めから全否定の姿勢の表れ)

鎌田キャップの感想

国が責任を果たしていない。民間に丸投げ。

実は私も8月しか戦争について考えていない。皆が考える問題だ。追跡は続く？！

(× 丸投げではない。カウント作業、焼骨は、厚生労働省監督の下で行なわれている。)

(× 問題の説明不足。何が闇で、何を追跡したのか？不明。)

○番組の検証を終えた上での考察

ほぼ自分たちの取材にとって都合のいい材料だけを集め、都合の悪い所は無視して、結論ありきで作られた番組であると推論しないわけにはいかない内容である。放送翌日から、理事長始め事務局スタッフ全員が現地に飛び、各地で調査及び次へのステップを考えての交渉に従事してきた。その中で、番組中にインタビューに応じた人達ほぼ全員と面談し、確認も行った。

この番組のいう「疑惑」の一つの根拠となっているもの(イフガオの例)は証言者達の証言を見るまでもなく、誤訳、置き換え、すり替えのオンパレードであり、顔を出さないと約束した人物の顔を出しているなど取材者としての資質を疑わざるを得ない。

また、空援隊事務局長に対する取材中に取材者が発言している内容からも以下の点が明確に読み取れる。
○フィリピンの行政・法律への無理解(ランガイキャプテンを自治会長みたいなの、宣誓供述書を「こんな紙切れ」と表現して貶めている等々)

○この取材に冒頭出演の亀井氏が同行している意図は？(この事実は映像に明確に残っている。空援隊HPにおいて全編公開予定)

○付け焼刃の知識と経験に基づく3週間にも及ぶ、空援隊のフィリピンでの通常の活動では考えられない巨費が投入された「杜撰な」取材。思い込みか意図的かは別にしても、事実でない事をさも空援隊がしている事だと視聴者に誤認させるだけの材料を一方向的に集め、空援隊の信用を失墜させる目的以外考えられない構成で番組が作られている。調査報道として、杜撰であり迂闊であるのは、非常に残念と言わなければならない。

このような番組制作手法が、先のNHK記者による大相撲野球賭博情報漏洩事件のように、報道の信頼性を更に大きく失わせるのではないのか。それによって引き起こされる将来に渡る大きな負の遺産は誰が支払う事になるのか。その新たな負債まで視聴料以外に払わせると言うのであれば、もはや、放送局としての報道を名乗るべきではないし、存在意義が大いに疑われる。

更には、それだけでなく、一部の人達の恣意的な情報操作に使われている可能性すら感じさせる今回の一件は、国民一人一人から視聴料を受け取っている準国営放送としてあるべき姿だとは決して思えない。

番組冒頭の出演者らによる放送と期を一にして行われた厚生労働省への要望書の提出や対応は、放送を見て抗議に至ったように映るのかもしれないが、明らかに計画されていた事の証明とも言えると思う。

我々空援隊に全く非がない落ち度がないなどは決して言わない。

間違いがあれば正し、訂正すべきはする。

それは言わずもがなの当然のことである。が、戦後65年が経ち、それまでの関係者では成し得なかった成果を上げてきた新たな方法論を現地での取材もまともに行わず、初めから、非難する事だけにしか焦点が当たっていないのはどうしたことか、公平中立を旨とし、公正な報道に心掛けるのではないのか、実に悲しい限りである。

空援隊は設立わずか4年余りではあるが、明確にご遺族だけではなく戦後65年も放置されてきた戦没者の御遺骨の立場にも立って、一刻でも早く一体でも多くと活動を続けてきた。言われなき誹謗中傷に対抗する寸暇も惜しんで、活動している現地を含むスタッフ一同の思いを理解してくれとは言わないがせめて、努力を落胆に変えないでいただければ、と今は切に願う。

遺骨盗難事件とフィリピン人の遺骨混入の可能性とは全く別のものであり、それぞれに別途に取材すべき性質のものであろう。その上で、それらを空援隊が行ってきた可能性が高い、空援隊が遺骨収集を行ったから犯罪者たちが犯罪を行う動機を作ったのだと主張されるのなら、フィリピン国内で明確に証拠を集め刑事訴追するべきでは

ないのか。報道は決して、正義でも司法でもない。過去に幾多の冤罪や間違いを犯してきたのか反省される点はないのか。

空援隊の収集する御遺骨にフィリピン人の御遺骨が混入する可能性をゼロとは言わないが、だからと言って、我々は御遺骨の帰還をさせなくてよい、遅らせて良い理由になるとは思っていない。現地のフィリピン人スタッフ達が出来る限りの情報を集め、その中で出来る限り、身の危険も承知で現地に赴き、確認し、そして、受領したり、一緒に穴を掘ったりする姿を確認されてから、もう一度、同じように報道されるのが良いのではないかとも思う。

今回の件で、NHKが取り上げてくれた事に対する感謝の気持は確信としてある。今まで、記者クラブに情報を流してもあちこちに情報を持ちこんでみても、ごく一部のメディアが取り上げてくれるくらいで、国民の関心もほとんどなく、事実や現実を伝えようとする人達も非常に少数であった。

こんな状況で65年も経過して来られたご遺族の悲しみは察して余りあると思う。

改めて、ここに全ての戦没者に対して、深く頭を垂れ、香を手向け、花を供えて合掌したいと思う。

そして、広く国民にこれらの事実を知らしめる機会をくれた NHK に対して、非難は非難として、改めて感謝もしたいと思う。

そして、最後に、戦後65年も御遺骨を成果各地に放置してきた国家の姿勢並びに世の無関心に対して、深い怒りを覚えると共にそんな日本にいつの間になってしまったのかと悲嘆にくれる。

実現不可能な全ての人々が納得する方法論など求めてみて意味がない。現実には、我々のために戦ってくれた今もフィリピンのそこそこに放置されたままになっている御遺骨の姿に何も感じないで、私の生活が第一とでもいうのなら、そのような価値観を共有しようとは決して思わない。

この方式を推し進めていけば、確かに全く別の新たな「闇」を掘り起こしかねないという問題はある。その問題となりそうなものについても我々はここ数年の現地での活動において、あちこちでつき当たってきた。フィリピン戦線とはそういう非常に厳しい戦場であった事に違いはない。だからと言って、手をこまねいて、御遺骨を放置してよいということにはならないだろう。我々は「闇」を掘り起こしたいわけではないし、知らしめたいわけでもない。

御遺骨をそのままにしておいてよいと言う理由をいくら探してみても見つける事が出来ない以上、日本人として、日本国民として、例え政府がやらないとしても、一民間人の我々だけでも最後まで声を上げ続け、そして、御遺骨の全量帰還が叶うまで決して、この活動を終える事は出来ない。

一日も早く、御遺骨となった方々全員が祖国の土を踏めるよう全力を挙げて、活動を推し進めていくと改めて明確に空援隊の指針として宣言する。

特定非営利活動法人 空援隊

事務局長 倉田 宇山

理事長 小西 理